

FY2026/3 3Q

決算説明会資料

～2026年3月期 第3四半期～

日本ハム株式会社

2026年2月2日



事業利益は581億円（前年差 + 181億円の増益）

- 外部要因) 世界的な豪州産牛肉の需要増加に加え、国産鶏肉市況が引き続き高値継続
- 内部要因) 豪州の増頭によるブランド牛肉比率の上昇や輸入食肉の在庫管理徹底、
仕入れ価格が高騰する中、フード営業の販売戦略が奏功し販売数量が回復
ボールパーク事業もシーズンオフのイベント開催等で来場者数が堅調に推移

事業利益は640億円（前年差 + 215億円）の見込み

- 外部要因) 豪州産牛肉の販売環境や国産・輸入鶏肉市況が通期を通して追い風の見込み
※スペイン産豚肉の輸入停止影響は限定的
- 内部要因) 豪州の最適販売先国選定や輸入食肉の在庫コントロールによる適正利益の創出に加え、フード販売の販売戦略を深化
ハム・ソーセージ、加工品は構造改革や回復基調の重点ブランドにより売上総利益が一層回復する見込みも、
海外加工の回復遅延や、一次加工品の原料価格高騰が影響し下方修正

親会社の所有者に帰属する当期利益は340億円（前年差 + 74億円）の見込み

- 日本ホワイトファーム(株)知床食品工場の火災影響により、65億円の特別損失を計上見込み

26年3月期の年間配当は160円（期初計画比+4円増配）の見込み

03 FY2026/3 3Q累計 決算サマリー②

FY2026/3 3Q累計実績

FY2026/3 通期計画

売上高

11,086 億円

前年比 +5.1%

14,400 億円2Q時見込比 +0.7%
前年比 +5.1%

事業利益

581 億円

前年比 +45.3%

640 億円2Q時見込比 +8.5%
前年比 +50.4%帰属する当期利益に
親会社の所有者に**336** 億円

前年比 +15.2%

340 億円2Q時見込比 +0.0%
前年比 +27.9%

経営指標

ROE **6.3%**

前年差 +0.8%

ROE **6.6%**

前年差 +1.5%

ROIC **5.1%**

前年差 +1.5%

ROIC **5.8%**

前年差 +1.9%

EPS **343.14円**

前年差 +56.71円

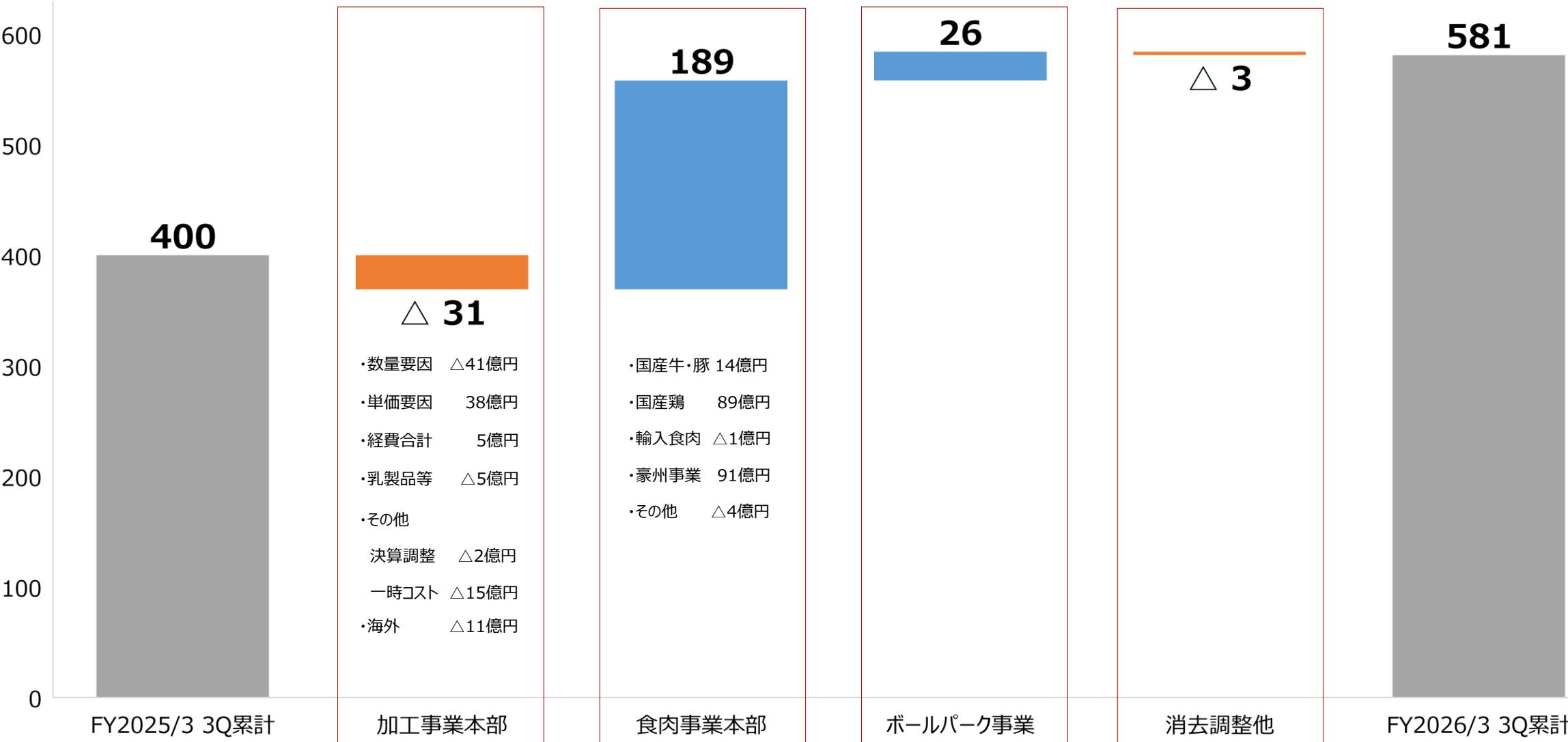
EPS **355.76円**

前年差 +92.71円

04 FY2026/3 3Q累計 決算サマリー③

FY2026/3 3Q累計事業利益

(単位：億円)



CONTENTS

FY2026/3

01 実績／セグメント別の実績

- 07 実績ハイライト FY2026/3 3Q累計
- 09 FY2026/3 3Q累計実績 加工事業本部
- 11 FY2026/3 3Q累計実績 食肉事業本部
- 13 FY2026/3 3Q累計実績 ボールパーク事業

02 計画

- 15 計画ハイライト FY2026/3 通期
- 18 FY2026/3 通期計画 加工事業本部
- 20 FY2026/3 通期計画 食肉事業本部

03 主な財務データ／参考資料

- 23 FY2025/3連結業績概要及びFY2026/3計画
- 24 連結貸借対照表及び連結キャッシュ・フロー計算書
- 25 設備投資額、減価償却費
- 26 製品別売上高、海外売上高内訳
- 27 外部環境 市況

※ 当社は国際会計基準(IFRS会計基準)を適用しています。

※ 事業利益は、売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を控除し、当社グループが定める為替差損益を加味するとともにIFRS会計基準への調整及び非経常項目を除外して算出しております。

※ 四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

CONTENTS

01

実績／セグメント別の実績

02

計画

03

主な財務データ／参考資料

- 07 実績ハイライト FY2026/3 3Q累計
- 09 FY2026/3 3Q累計実績 加工事業本部
- 11 FY2026/3 3Q累計実績 食肉事業本部
- 13 FY2026/3 3Q累計実績 ボールパーク事業

- 15 計画ハイライト FY2026/3 通期
- 18 FY2026/3 通期計画 加工事業本部
- 20 FY2026/3 通期計画 食肉事業本部

- 23 FY2025/3連結業績概要及びFY2026/3計画
- 24 連結貸借対照表及び連結キャッシュ・フロー計算書
- 25 設備投資額、減価償却費
- 26 製品別売上高、海外売上高内訳
- 27 外部環境 市況

07 実績ハイライト① FY2026/3 3Q累計実績

(単位：億円)

	FY2026/3 上期	FY2026/3 3Q	FY2026/3 3Q累計	前年差	増減率
売上高	7,226	3,860	11,086	536	5.1%
事業利益	363	218	581	181	45.3%
事業利益率	5.0%	5.6%	5.2%	1.5%	-
税引前四半期利益	383	154	537	104	23.9%
親会社の所有者に帰属 する四半期利益	232	104	336	44	15.2%

08 実績ハイライト② FY2026/3 3Q累計実績

(単位：億円)

	売上高					事業利益				
	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率
加工事業本部	2,582	1,420	4,003	△54	△1.3%	22	48	70	△31	△30.7%
食肉事業本部	5,067	2,752	7,819	410	5.5%	276	188	464	189	69.0%
ボールパーク事業	228	46	274	36	14.9%	91	△7	84	26	44.2%
消去調整他	△652	△358	△1,010	144	-	△25	△12	△37	△3	-
連結計	7,226	3,860	11,086	536	5.1%	363	218	581	181	45.3%

09 FY2026/3 3Q累計実績 加工事業本部①

(単位：億円)

	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率
売上高	2,582	1,420	4,003	△54	△1.3%
事業利益	22	48	70	△31	△30.7%
内) 国内事業	33	53	86	△19	△18.4%
内) 海外事業	△11	△5	△16	△11	-
事業利益率	0.8%	3.4%	1.7%	△0.7%	-

一時コストを除く国内の事業利益率は前年並み3.3%維持

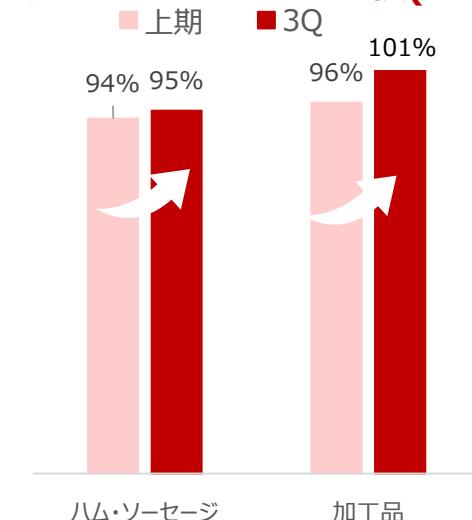
3Q累計国内事業利益増減要因分析

ハム・ソーセージ
&加工品

(単位：億円)

FY25/03 事業利益(国内)	105
外部環境	△9
内部改善	12
乳製品等	△5
その他 (国内決算調整等)	△2
FY26/03 国内事業計	101
その他 (一時コスト)	△15
FY26/03 事業利益(国内)	86

カテゴリー別国内売上実績(前年比)



売上高

減収

・国内) 3Qに入り加工品の販売金額は前年を上回ったが、シャウエッセン以外のハム・ソーセージの回復遅れにより減収

・海外) 北米買収企業の製造数量が継続して寄与し増収

事業利益

減益

・国内) ハム・ソーセージ、加工品はミックス改善に伴い前年並みの事業利益を確保したが、一次加工品の原料価格高騰とDX・IT関連コストの増加により減益

・海外) 北米買収企業の稼働に課題が残り減益

※3Qの北米加工品は価格転嫁が進み前年並みまで回復

コンシューマ商品別/チャネル別 3Q累計国内売上実績(前年比)

商品	金額
ハム・ソーセージ	99.5%
ワインー群	99.5%
シャウエッセン群	102.3%
その他ワインー群	90.5%
ハム・ベーコン群	85.2%
コンシューマ計	93.6%
業務用	97.5%
総計	94.2%
加工品	102.6%
チルドベーカリー群	102.6%
中華名菜群	97.0%
フライドチキン群	95.7%
ハンバーグ・ミートボール群	97.3%
コンシューマ計	99.2%
業務用	94.2%
総計	97.3%

※シャウエッセン群は「シャウエッセン」「シャウスライス」などを含む

※カテゴリー見直しにより、前回の開示から一部実績が変更

10 FY2026/3 3Q累計実績 加工事業本部②

3Q累計事業利益 前年差要因分析

(単位：億円)

	上期 前年増減	3Q 前年増減	3Q累計 前年増減	主な前年差要因
ハム・ソーセージ&加工品	2	1	3	
粗利合計	△5	2	△3	
数量要因※①	△35	△5	△41	加工品を中心に販売数量は回復基調だが、低収益商品の見直し継続と、ハム・ソーセージ、中華名菜、サブブランド商品の回復遅れが影響
単価要因	31	7	38	
商品ミックス※②	40	6	46	シャウエッセン群伸長など重点カテゴリー比率が計画以上に上昇し、単価改善が継続
外部環境※③	△10	1	△8	
主原料	△10	0	△10	牛肉原料価格高騰が継続
副資材	1	1	2	3Qで主に羊腸価格が好転
経費合計	7	△2	5	
電燃料※④	△1	0	△1	3Qで主に電力費が改善
その他※⑤ (製造経費・販管費等)	8	△2	6	数量回復に伴う販促経費が一部増加も、製造部門でのライン数削減や自助努力によるコスト削減効果は継続
乳製品・水産・エキス・一次加工品	1	△6	△5	3Qで一次加工品の原料価格高騰が影響
その他(国内決算調整等)	△17	△1	△17	DX・IT関連などの一時コスト△15億円、決算調整△2億円が影響
海外	△11	0	△11	3Qに入り、北米加工品の価格転嫁が進み前年並みまで回復も、買収工場稼働率の伸び悩みによる製造経費の高止まりが影響
合計	△24	△7	△31	

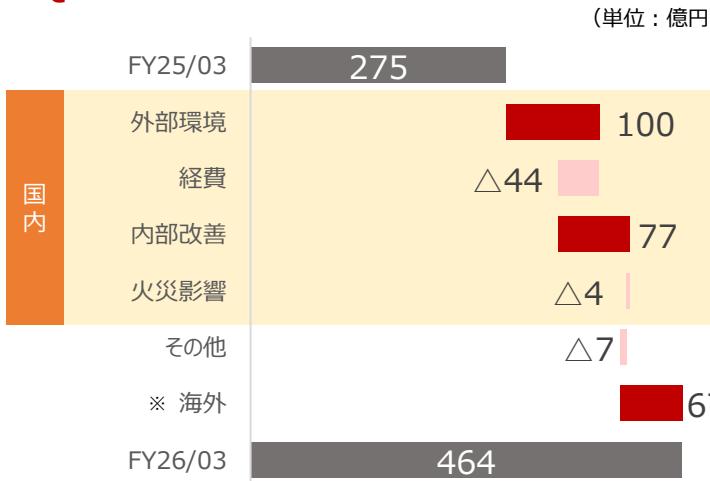
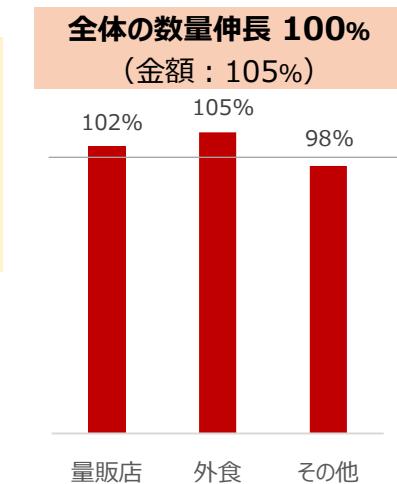
※P09の「3Q累計国内事業利益増減要因分析」のうち、「外部環境」は③+④、「内部改善」は①+②+⑤

11 FY2026/3 3Q累計実績 食肉事業本部①

(単位：億円)

	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率
売上高	5,067	2,752	7,819	410	5.5%
事業利益	276	188	464	189	69.0%
内) 豪州事業	77	37	114	91	400.3%
事業利益率	5.4%	6.8%	5.9%	2.2%	-

3Q累計事業利益増減要因分析

フード販売グループ
チャネル別 売上数量実績

※フード販売グループは食肉販売会社を指す。
東日本フード・関東日本フード・中日本フード・西日本フード・NHジャパンフード

売上高

増収

事業利益

増益

- ・国産鶏肉、豪州牛肉事業の販売数量・単価が上昇
※知床食品工場火災の影響で、国産鶏肉生産数量は11月以降減少
- ・国内販売で適切な価格転嫁を行う中、3Qにかけては販売数量も回復し、昨年以上で推移
- ・国産豚の新農場本格稼働に伴い販売数量増加
- ・国産鶏肉の相場上昇に伴い、生産部門で増益
- ・豪州牛肉事業は生産性向上や生産頭数拡大を行うなか、最適な販売先国を見極め利益を拡大
- ・国産豚肉の販売施策が上期に引き続き寄与

フード販売グループ
畜種別売上数量・金額実績(前年比)

	国産		輸入		合計	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
牛肉	96%	101%	90%	95%	92%	98%
豚肉	101%	103%	100%	98%	101%	101%
鶏肉	101%	119%	103%	115%	101%	118%
合計	101%	108%	98%	99%	100%	105%

3Q累計主力ブランド
売上数量実績(前年比)

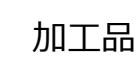
95%



108%



141%



加工品

110%

12 FY2026/3 3Q累計実績 食肉事業本部②

3Q累計事業利益 前年差要因分析

(単位：億円)

	上期 前年増減	3Q 前年増減	3Q累計 前年増減	主な前年差要因
国産牛・豚事業	9	5	14	国産豚の販売施策が上期に引き続き3Qも奏功
国産鶏事業	71	18	89	生産) 相場高の影響で上期に引き続き3Qも増益 荷受) 相場高騰の中、社外調達が増加し収益圧迫も、バリューチェーン全体では利益を確保 ※知床食品工場火災の影響は△4億円
輸入食肉事業	△31	29	△1	
国内輸入食肉事業	△4	27	23	昨年の下期は調達価格高騰により需給バランスが悪化し減益したが、今年は適切な在庫や調達数量のコントロールにより3Qで増益。また、輸入鶏肉の需要が高く好調に推移
海外事業	△27	3	△24	トルコの鶏肉事業において、飼料価格及び経費が高騰
販売(フード)・物流部門	△9	9	0	輸入食肉の数量減少や国産鶏肉が高騰する中、販売戦略などの内部改善により販売数量が回復し、利益を確保
豪州事業	58	34	91	世界的に好調な需要が継続する中、生産性の改善や適切な販売先国の見極めなどの自助努力により利益を確保 (※処理工場の生産性改善による内部改善は23億円)
その他 (決算調整等)	△3	△2	△4	
合計	96	94	189	

13 FY2026/3 3Q累計実績 ボールパーク事業

(単位：億円)

	上期	3Q	3Q累計	前年差	増減率
売上高	228	46	274	36	14.9%
事業利益	91	△7	84	26	44.2%
事業利益率	39.7%	-	30.6%	6.2%	-

■オフシーズンも魅力発信・集客に向けて、野球以外のイベントやコンテンツ活用

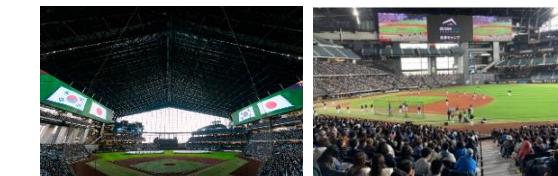
F VILLAGEオリジナルのキャラクター「えふたん」や外部コンテンツ活用し幅広いファンを獲得



KUBOTA AGRI WEEK
11月6日～9日



2025パーソル クライマックスシリーズ パ・日韓ドリームプレーヤーズゲーム・秋季キャンプ



スポーツビジネストークセッション
11月23日



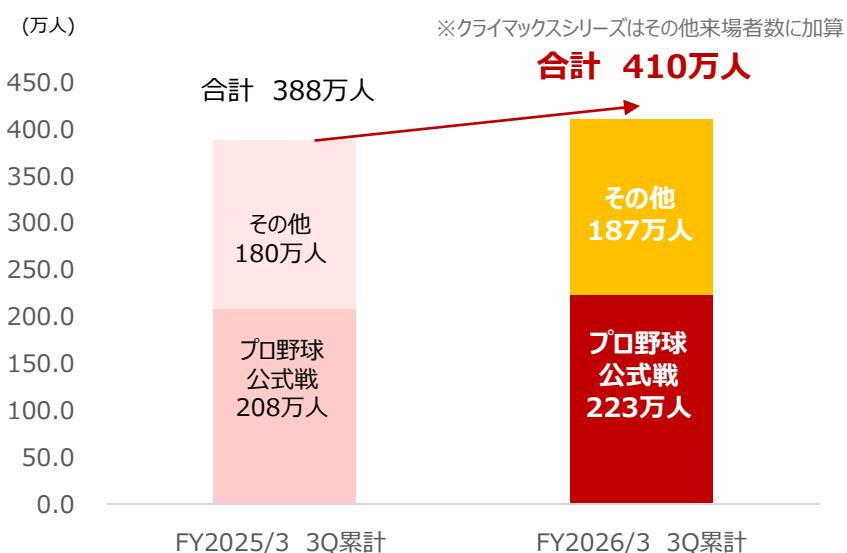
みんなのXmas音楽祭
12月21日



売上高／事業利益 増収増益

- ・ファイターズ主催のレギュラーシーズン公式戦において観客動員数が過去最高を記録したことに加え、クライマックスシリーズ進出も寄与し、主にチケット収入・広告収入・グッズ収入・飲食収入が伸長
- ・シーズンオフ以降も、エスコンフィールドHOKKAIDOでのイベント開催で、前年水準の来場者数を確保

北海道ボールパークFビレッジ来場者数



CONTENTS

01 実績／セグメント別の実績

- 07 実績ハイライト FY2026/3 3Q累計
- 09 FY2026/3 3Q累計実績 加工事業本部
- 11 FY2026/3 3Q累計実績 食肉事業本部
- 13 FY2026/3 3Q累計実績 ボールパーク事業

02 計画

- 15 計画ハイライト FY2026/3 通期
- 18 FY2026/3 通期計画 加工事業本部
- 20 FY2026/3 通期計画 食肉事業本部

03 主な財務データ／参考資料

- 23 FY2025/3連結業績概要及びFY2026/3計画
- 24 連結貸借対照表及び連結キャッシュ・フロー計算書
- 25 設備投資額、減価償却費
- 26 製品別売上高、海外売上高内訳
- 27 外部環境 市況

15 計画ハイライト① FY2026/3通期計画

(単位：億円)

	FY2025/3通期	FY2026/3通期見込	前年差	増減率
売上高	13,706	14,400	694	5.1%
事業利益	425	640	215	50.4%
事業利益率	3.1%	4.4%	1.3%	-
税引前当期利益	372	500	128	34.4%
親会社の所有者に帰属する当期利益	266	340	74	27.9%
ROE	5.1%	6.6%	1.5%	-
ROIC	3.9%	5.8%	1.9%	-
EPS (円)	263.05	355.76	92.71	-

16 計画ハイライト② FY2026/3通期計画

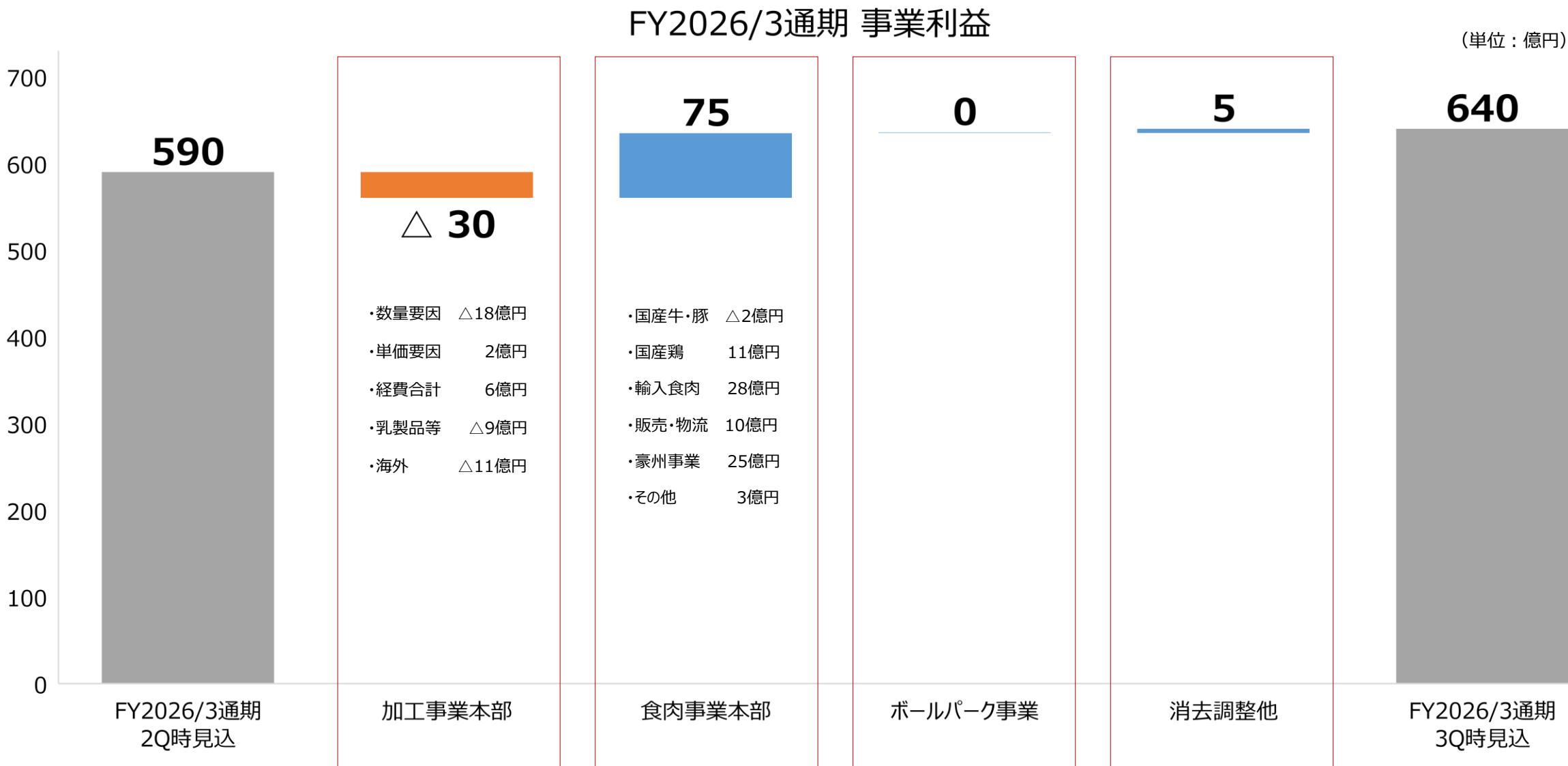
- 事業利益**
- 外部要因) 豪州産牛肉の販売環境や国産・輸入鶏肉市況が通期を通して追い風の見込み
 - 内部要因) 豪州の最適な販売先国選定や、輸入食肉の在庫コントロールの徹底・フード販売の更なる販売戦略の深化
- ハム・ソーセージ、加工品は構造改革や回復基調の重点ブランドにより売上総利益は一層回復する見込みも、海外加工の回復遅延や、一次加工品の原料価格高騰が影響し下方修正

セグメント別事業利益計画

(単位: 億円)

	上期		3Q FY2026/3 実績	4Q FY2026/3 見込	下期			通期				
	FY2025/3 実績	FY2026/3 実績			FY2025/3 実績	2Q時見込	3Q時見込	見込差	FY2025/3 実績	2Q時見込		
									3Q時見込	見込差		
加工事業本部	46	22	48	5	54	83	53	△30	101	105	75	△30
食肉事業本部	180	276	188	106	159	219	294	75	340	495	570	75
ボールパーク事業	70	91	△7	△34	△37	△41	△41	0	33	50	50	0
消去調整他	△26	△25	△12	△18	△22	△35	△30	5	△49	△60	△55	5
連結計	271	363	218	59	154	227	277	50	425	590	640	50

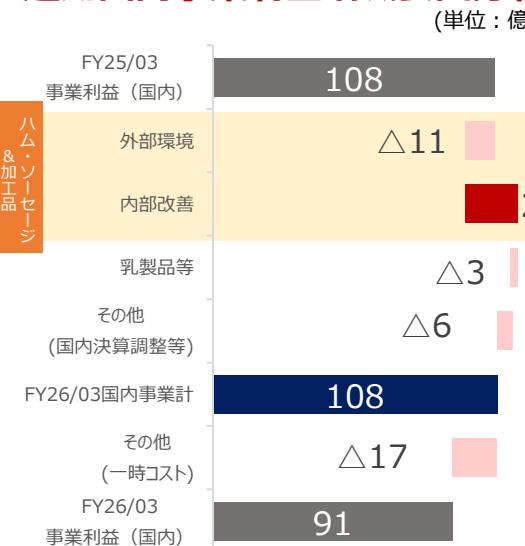
17 計画ハイライト③ FY2026/3 通期事業利益計画 見込差の主要要因分析



18 FY2026/3通期計画 加工事業本部①

	FY2025/3 実績	FY2026/3 2Q時見込	FY2026/3 3Q時見込	前年差	対前年 増減率
売上高	5,425	5,450	5,350	△75	△1.4%
事業利益	101	105	75	△26	△25.7%
内) 国内事業	108	110	91	△16	△15.0%
内) 海外事業	△7	△5	△16	△10	-
事業利益率	1.9%	1.9%	1.4%	△0.5%	-

通期国内事業利益増減要因分析

コンシューマ商品別/
チャネル別 通期国内売上計画（前年比）

商品/チャネル	金額	商品/チャネル	金額
ハム・ソーセージ		加工品	
ワインナー群	101%	チルドベーカリー群	102%
シャウエッセン群	103%	中華名菜群	98%
その他ワインナー群	90%	フライドチキン群	97%
ハム・ベーコン群	86%	ハンバーグ・ミートボール群	100%
コンシューマ計	95%	コンシューマ計	100%
業務用	100%	業務用	95%
総計	96%	総計	97%

※シャウエッセン群は「シャウエッセン」「シャウスライス」などを含む
※カテゴリー見直しにより、前回の開示から一部計画が変更

(単位: 億円)

売上高

- ・国内) 注力得意先への販売強化により回復基調だが、3Qまでの加工品などの回復遅れが影響し減収

減収

- ・海外) 年間を通して、北米買収企業の製造数量が寄与し増収

事業利益

- ・国内) ハム・ソーセージ、加工品は売上総利益が拡大し、前年並みの利益を確保するも、DX・IT関連などの一時的なコストの影響で減益

減益

- ・海外) 北米買収工場の来期初からの本格稼働に向けた基盤整備にコスト先行が続く影響で減益

来期の利益創出に向けた主な取組

【国内】国内の販売回復に向けた取組

- ・さらなる製販連携で組織の一体感を高め、迅速な施策展開を行い市場競争力を向上
- ・ERP導入によるデータを活用したマーケティング営業の実践
- ・最適生産体制に向けた構造改革の更なる推進

【海外】海外売上拡大に向けたエリア別取組

- ・北米 買収工場の稼働平準化に向けた人財育成と生産体制構築
- ・タイ 販売部隊（日本及びCPF※）との連携による新商品の導入
- ・ベトナム、中国に続き、インドネシア、タイでもシャウエッセンの製造・販売を開始

19 FY2026/3通期計画 加工事業本部②

通期事業利益増減 計画差要因分析

(単位: 億円)

	下期			通期			主な計画差要因
	2Q時見込	3Q時見込	差異	2Q時見込	3Q時見込	差異	
ハム・ソーセージ&加工品	17	7	△10	19	9	△10	
粗利合計	31	15	△16	26	10	△16	
数量要因※①	14	△4	△18	△22	△39	△18	4Qも回復基調が続くが、数量回復の遅れが影響し計画を下回る見込み
単価要因	17	19	2	48	50	2	
商品ミックス※②	18	19	2	58	59	2	低収益商品の見直しや重点ブランド商品の伸長で単価改善が継続
外部環境※③	△1	0	0	△10	△10	0	
主原料	1	△1	△1	△10	△11	△1	牛肉原料価格高騰が継続
副資材	△1	0	2	0	1	2	主に羊腸価格が改善
経費合計	△14	△8	6	△7	△1	6	
電燃料※④	△3	1	3	△4	△1	3	電力費、燃料費ともに改善
その他※⑤ (製造経費・販管費等)	△11	△8	3	△3	0	3	通期を通して製造部門でのライン数削減や重点ラインの稼働率向上など、改善効果が発現
乳製品・水産・エキス・一次加工品	6	△4	△9	7	△3	△9	4Qに回復を見込む一方、計画値は下回る見込み
その他(国内決算調整等)	△6	△6	0	△23	△23	0	
海外	12	1	△11	1	△10	△11	北米買収工場の本格稼働に向けた製造体制を構築中も、3Qまでの稼働遅れが影響
合計	29	△1	△30	5	△26	△30	

※P18の「通期国内事業利益増減要因分析」のうち、「外部環境」は③+④、「内部改善」は①+②+⑤

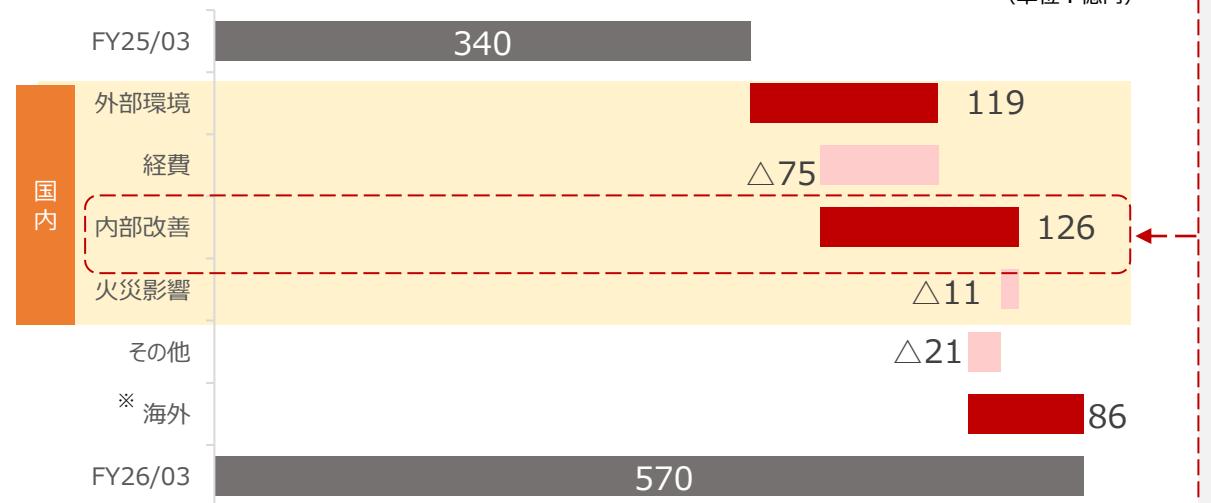
20 FY2026/3通期計画 食肉事業本部①

(単位: 億円)

	FY2025/3 実績	FY2026/3 2Q時見込	FY2026/3 3Q時見込	前年差	対前年 増減率
売上高	9,568	10,000	10,200	632	6.6%
事業利益	340	495	570	230	67.8%
内)豪州事業	26	113	138	113	453.3%
事業利益率	3.6%	5.0%	5.6%	2.0%	-

通期事業利益増減要因分析

(単位: 億円)



売上高

増収

- ・豪州牛肉の堅調な需要に支えられ、単価が上昇
- ・国産鶏肉は知床食品工場火災の影響で下期の生産数量が減少も、単価が上昇し増収
- ・全体的な相場上昇に伴う、販売部門の単価上昇に加え、販売数量も拡大

事業利益

増益

- ・世界的な豪州産牛肉の需要増加に伴い利益を確保
- ・国産鶏肉の相場上昇に伴い生産部門で増益
- ・国産豚肉の生産農場本格稼働に伴い出荷頭数が増加。販売施策も奏功

内部努力による利益改善

【国産】

鶏肉) 知床食品工場火災の影響がある中、更なる社外調達数量の拡大で販売数量を確保
豚肉) 生産・処理頭数の増加に加え、新規販売先を拡大

【輸入】

在庫コントロールの徹底と、先決め比率(紐づけされた調達)の向上

【販売物流】

エリア別の販売戦略や、加工品販売を加速
シェア拡大に向け、トップパートナー戦略を加速し販売数量を確保

21 FY2026/3通期計画 食肉事業本部②

通期事業利益増減 計画差要因分析

(単位：億円)

	下期			通期			主な計画差要因
	2Q時見込	3Q時見込	差異	2Q時見込	3Q時見込	差異	
国産牛・豚事業	12	10	△2	21	19	△2	販売施策が奏功するも、豚肉相場が想定以下で推移することにより生産利益が減少
国産鶏事業	9	19	11	80	90	11	下期より知床食品工場火災影響で社外調達数量を増加したため、荷受で苦戦も、堅調な相場により生産で増益 ※知床食品工場火災の影響は通期見込差△14億円を見込む
輸入食肉事業	10	38	28	△21	8	28	
国内輸入食肉事業	12	39	27	8	35	27	在庫コントロールの徹底と、輸入鶏肉の相場上昇により好調に推移
海外事業	△2	△1	2	△29	△28	2	
販売(フード)・物流部門	3	14	10	△6	5	10	販売数量拡大に向けた販売戦略の遂行や、適切な価格転嫁を実施し利益確保
豪州事業	31	56	25	88	113	25	世界的に強い豪州産牛肉の需要に支えられる中、販売先国の見極めを行い増益
その他(決算調整等)	△4	△2	3	△7	△5	3	
合計	60	135	75	155	230	75	

CONTENTS

01 実績／セグメント別の実績

02 計画

03 主な財務データ／参考資料

- 04 サマリー
- 05 決算サマリー FY2026/3 3Q累計
- 07 実績ハイライト FY2026/3 3Q累計
- 09 FY2026/3 3Q累計実績 加工事業本部
- 11 FY2026/3 3Q累計実績 食肉事業本部
- 13 FY2026/3 3Q累計実績 ポールパーク事業

- 15 計画ハイライト FY2026/3 通期
- 18 FY2026/3 通期計画 加工事業本部
- 20 FY2026/3 通期計画 食肉事業本部

- 23 FY2025/3連結業績概要及びFY2026/3計画
- 24 連結貸借対照表及び連結キャッシュ・フロー計算書
- 25 設備投資額、減価償却費
- 26 製品別売上高、海外売上高内訳
- 27 外部環境 市況

23 FY2025/3連結業績概要及びFY2026/3計画

	(単位:百万円)			(単位:百万円)			FY2026/3 3Q累計実績			
	FY2025/3			FY2026/3						
	3Q累計実績	4Q実績	通期実績	3Q累計実績	増減率	4Q計画	増減率	通期計画	増減率	
売上高	1,055,018	315,535	1,370,553	1,108,591	5.1%	331,409	5.0%	1,440,000	5.1%	【その他収益・費用】 為替差益や、不動産売却に伴う固定資産売却益が発生も、日本ホワイ トファーム(株)知床食品工場火災の影響により、約51億円の特別損失を計上。
売上原価	879,013	271,157	1,150,170	911,563	3.7%	278,437	2.7%	1,190,000	3.5%	
売上総利益	176,005	44,378	220,383	197,028	11.9%	52,972	19.4%	250,000	13.4%	
売上総利益率	16.7%	14.1%	16.1%	17.8%	-	16.0%	-	17.4%	-	
販売費および一般管理費	136,604	47,845	184,449	143,149	4.8%	49,851	4.2%	193,000	4.6%	
営業利益	39,401	△3,467	35,934	53,879	36.7%	3,121	-	57,000	58.6%	
その他収益・費用	3,681	△2,637	1,044	845	△77.0%	△6,845	-	△6,000	-	
金融収益・費用	1,006	△45	961	44	△95.6%	456	-	500	△48.0%	
持分法による投資損益	△791	50	△741	△1,110	-	△390	-	△1,500	-	
税引前当期利益	43,297	△6,099	37,198	53,658	23.9%	△3,658	-	50,000	34.4%	
法人所得税費用	12,556	△3,161	9,395	17,782	41.6%	△2,782	-	15,000	59.7%	FY2026/3 通期見込 【その他収益・費用】 構造改革に伴う固定資産の減損 損失約21億円に加え、日本ホワイ トファーム(株)知床食品工場火災の 影響により、約65億円の特別損失 を見込む。
税率	29.0%	-	25.3%	33.1%	-	-	-	30.0%	-	
親会社の所有者に 帰属する当期利益	29,152	△2,567	26,585	33,577	15.2%	423	-	34,000	27.9%	
ROE	5.5%	-	5.1%	6.3%	-	-	-	6.6%	-	
ROIC	3.6%	-	3.9%	5.1%	-	-	-	5.8%	-	
EPS(円)	286.43	-	263.05	343.14	-	-	-	355.76	-	
営業利益	39,401	△3,467	35,934	53,879	36.7%	3,121	-	57,000	58.6%	
為替差損益	5,046	1,082	6,128	3,198	-	-	-	-	-	
IFRSへの調整 他	△4,459	4,937	478	1,045	-	-	-	-	-	
事業利益	39,988	2,552	42,540	58,122	45.3%	5,878	130.3%	64,000	50.4%	

24 連結貸借対照表及び連結キャッシュ・フロー計算書

	FY2024/3 期末	FY2025/3 期末	FY2026/3 3Q	対前期末 増減額	(単位：百万円) 対前期末 増減率
流動資産合計	423,430	406,308	468,605	62,297	15.3%
非流動資産合計	534,807	542,964	537,097	△5,867	△1.1%
資産合計	958,237	949,272	1,005,702	56,430	5.9%
流動負債合計	246,832	257,743	256,348	△1,395	△0.5%
非流動負債合計	172,203	154,457	194,840	40,383	26.1%
負債合計	419,035	412,200	451,188	38,988	9.5%
資本合計	539,202	537,072	554,514	17,442	3.2%
負債・資本合計	958,237	949,272	1,005,702	56,430	5.9%
DEレシオ	0.41	0.43	0.44	-	-

《流動資産合計》 現金及び現金同等物が前期末比11.8%減の631億円となったが、年末商戦等の季節要因、及び当第3四半期末日が金融機関の休業日であった影響等により営業債権及びその他の債権が前期末比40.2%増の1,992億円、その他の金融資産が前期末比431.5%増の166億円となったこと等により、前期末比15.3%増の4,686億円となった。

《非流動資産合計》 その他の金融資産が前期末比16.1%増の319億円となったが、使用権資産が前期末比10.4%減の392億円となったこと等により、前期末比1.1%減の5,371億円となった。

《負債合計》 ボールパーク事業におけるシーズン経過に伴う前受収益の取り崩し等により、その他の流動負債が前期末比5.5%減の451億円となったが、営業債務及びその他の債務が前期末比18.1%増の1,255億円となったこと等により、前期末比9.5%増の4,512億円となった。

	FY2024/3 3Q累計	FY2025/3 3Q累計	FY2026/3 3Q累計	対前期3Q累計 増減額	(単位：百万円) 対前期3Q累計 増減率
営業活動によるCF	60,543	32,174	45,224	13,050	40.6%
投資活動によるCF	△32,950	△21,089	△19,940	1,149	-
財務活動によるCF	△27,818	4,651	△37,409	△42,060	-

《営業活動によるキャッシュ・フロー》 営業債権及びその他の債権の増加560億円等があったが、税引前四半期利益537億円、減価償却費及び償却費336億円、営業債務及びその他の債務の増加186億円等により、452億円の純キャッシュ増となった。

《投資活動によるキャッシュ・フロー》 その他の金融資産の売却及び償還36億円等があったが、固定資産等の取得241億円等により、199億円の純キャッシュ減となった。

《財務活動によるキャッシュ・フロー》 借入債務による調達680億円等があったが、借入債務の返済489億円、自己株式の取得のための支出300億円等により、374億円の純キャッシュ減となった。

25 設備投資額、減価償却費

(単位：百万円)

(単位：百万円)

	FY2025/3 3Q累計実績	3Q累計実績	対前期3Q累計 増減額	FY2026/3 対前期3Q累計 増減率	FY2026/3 通期計画
	FY2026/3 3Q累計実績				
設備投資合計	22,897	21,634	△1,263	△5.5%	38,500
加工事業本部	4,423	7,954	3,531	79.8%	11,800
食肉事業本部	11,889	9,445	△2,444	△20.6%	19,700
ボールパーク事業	1,538	3,052	1,514	98.4%	3,600
消去調整他	5,047	1,183	△3,864	△76.6%	3,400
減価償却費	20,726	22,757	2,031	9.8%	30,500

※使用権資産に係る設備投資額、減価償却費を除く

FY2026/3 通期計画

維持更新と構造改革による既存事業の再強化を行いつつ、成長分野については戦略的な資金配分を実施

【加工事業本部】

前年からの繰り越し及び海外含む生産設備等の維持・更新を見込む

【食肉事業本部】

川上事業や豪州事業の強化を見込む

【ボールパーク事業】

体験価値向上、新駅開業に向けた成長投資を見込む

【成長分野】

ブランド強化、海外事業の拡大、R&D強化、環境関連等を見込む

26 製品別売上高、海外売上高内訳

製品別売上高

(単位：百万円)

	3Q累計実績	前年差	増減率
加工事業本部	339,625	△542	△0.2%
ハム・ソーセージ	92,100	△8,536	△8.5%
加工食品	173,713	13,666	8.5%
食肉	26,943	△6,285	△18.9%
乳製品	30,868	58	0.2%
その他	16,001	555	3.6%
食肉事業本部	742,762	51,391	7.4%
ハム・ソーセージ	1,526	484	46.4%
加工食品	22,917	1,869	8.9%
食肉	699,637	47,679	7.3%
乳製品	258	7	2.8%
その他	18,424	1,352	7.9%
ボールパーク事業	24,910	3,529	16.5%
消去調整	1,294	△805	△38.4%
連結売上高	1,108,591	53,573	5.1%

海外売上高内訳

(単位：百万円)

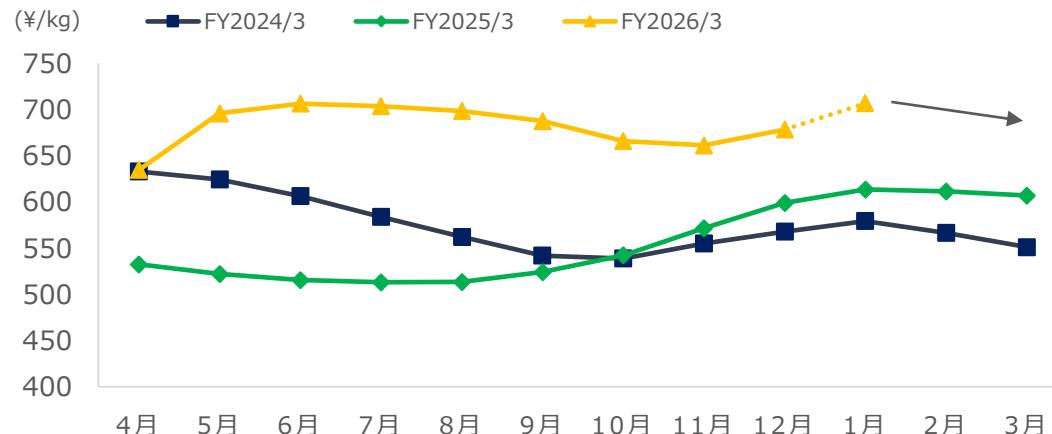
	FY2025/3	FY2026/3			
	3Q累計実績	3Q累計実績	売上高構成比	前年差	増減率
加工事業本部 海外事業	88,212	92,235	-	4,023	4.6%
外部顧客に対する売上高	38,315	49,033	53.2%	10,718	28.0%
セグメント間の内部売上高	49,897	43,202	46.8%	△6,695	△13.4%
食肉事業本部 豪州事業	99,858	126,763	-	26,905	26.9%
外部顧客に対する売上高	88,647	115,171	90.9%	26,524	29.9%
セグメント間の内部売上高	11,211	11,592	9.1%	381	3.4%

(注) 製品別の売上高は外部顧客に対する売上高のみの記載であるため、セグメント売上高とは一致しません。



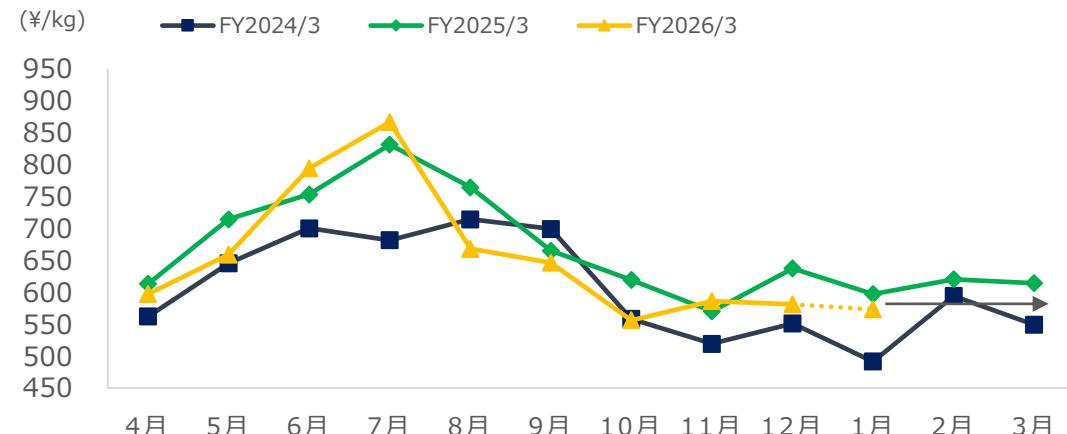
国産鶏肉相場

出典：鶏肉加重平均※農畜産業振興機構、農林水産省「食鳥市況情報」より単純平均単価



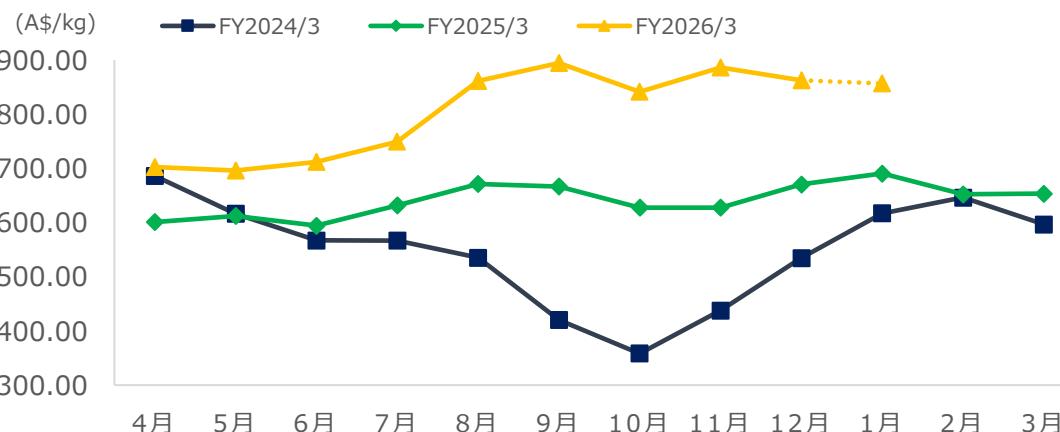
国産豚肉枝肉卸売価格

出典：上物 東京食肉市場平均価格 ※東京食肉市場株式会社



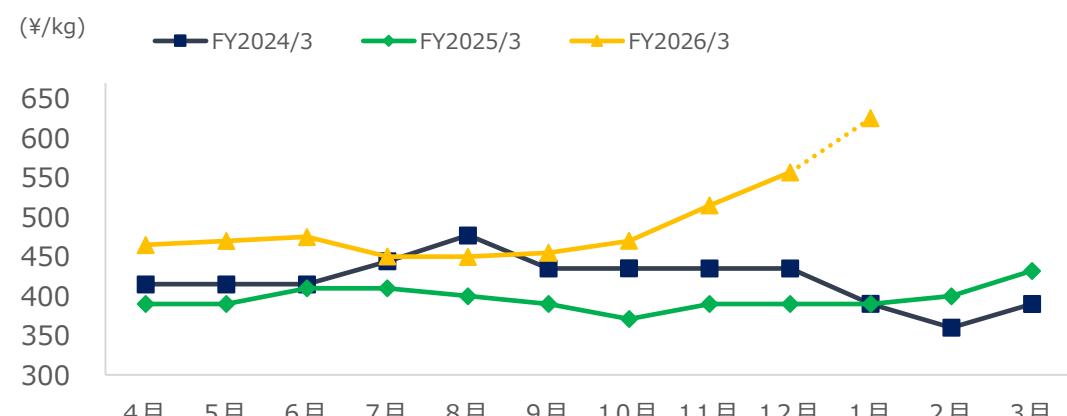
豪州産若齢牛価格(生産者販売価格)

出典：MLA



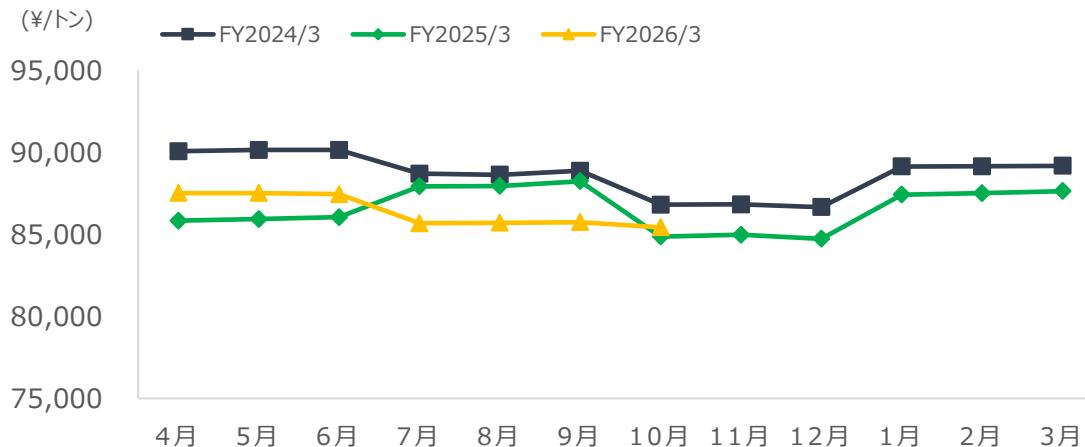
ブラジル産鶏もも肉 日本国内価格

出典： 食品産業新聞社畜産日報掲載分から単純平均単価



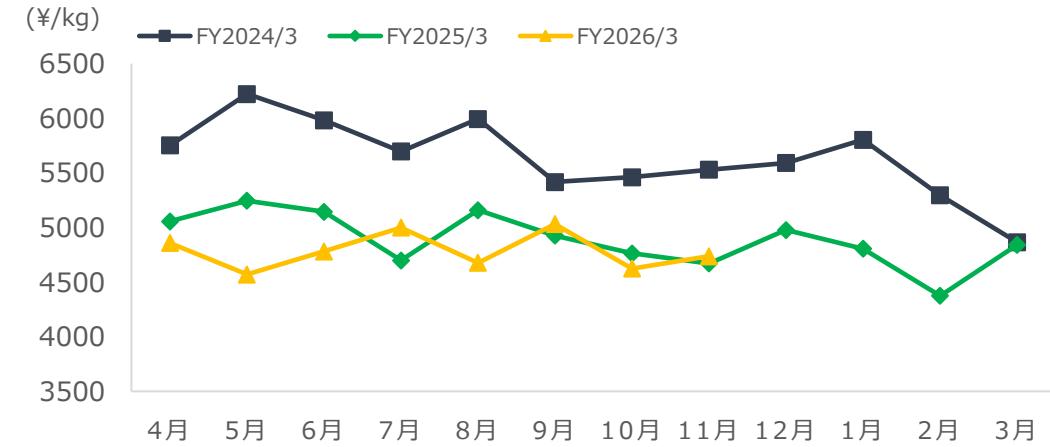
配合飼料価格

出典：農畜産業振興機構



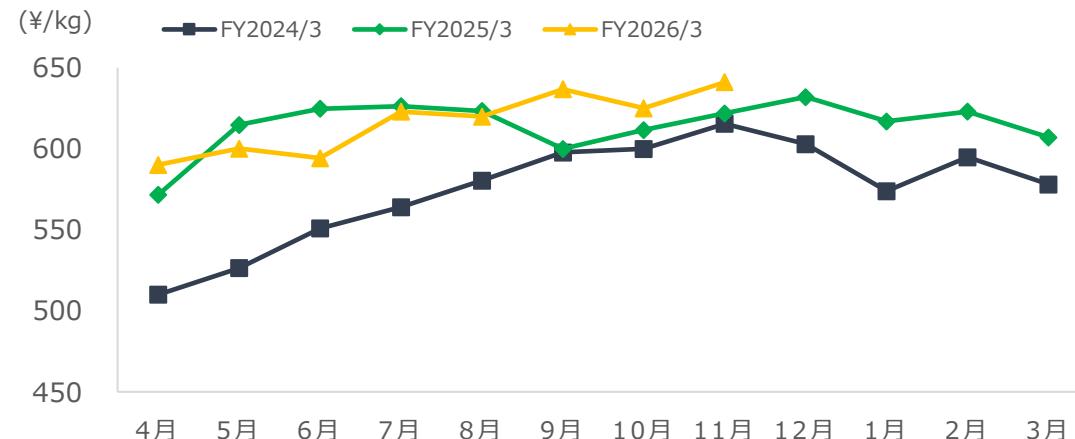
天然腸輸入価格 ※主に羊腸(豚腸・牛腸等も含む)

出典：財務省貿易統計 (金額÷数量で算出)



シーザンドポーク(GSP)輸入価格

出典：財務省貿易統計 (金額÷数量で算出)



お問合せ先

〒141-6014 東京都品川区大崎2-1-1

ThinkPark Tower

日本ハム株式会社 VBM推進室

電話：03-4555-8052

メールアドレス：nhfoods.ir@nipponham.co.jp

見通しに関する注意事項

この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する見通しの記述が含まれています。

これらの記述は当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見通しです。

また、経済環境、市場動向、為替レートなどの外部環境の影響があります。

従って、これら業績見通しのみに全面的に依拠することはお控え頂きますようお願いいたします。

また、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おきください。